

『名古屋なつかしの商店街』を読む

件名の本が風媒社から8月に出版された。名古屋タイムズアーカイブス委員会編である。拙著『災後の新聞』とは違って、本屋の店頭でよく見かける。「なつかしき」から、つい手にとってみたくなる本だ。「社会調査実習」という講義で、学生と商店街調査をよく行ったので、早速手に入れた。

戦後復興とともに商店街の黄金時代が到来した。紹介されるイラストマップは、商店街が戦後の黄金時代を迎えた昭和27年から29年にかけて、名古屋タイムズ（名タイ）が「〇〇新地図」（〇〇に商店街名を毎回入れた）「発展会風土記」（発展会は現在の商店街振興組合）のタイトルで連載したものの一部である。

数多くの商店街が紹介されているが、やはり社会調査実習でも取り上げた「滝子商店街」に注目した。案内では「明治天皇が旧第八高等学校を視察するというので畑の真ん中に道を開いたという行幸道路が原型。八高の学生が下宿し、食堂や本屋など、かつては学生とのつながりが密だった。」

イラストマップは滝子電停付近から南を見た風景と商店である。「往年の八高跡には市立大学建設中！」とある。今も残る商店もあるが、消え去った商店も多い。

「カケノ写真機店」さんには、写真の現像や社会調査実習などでお世話になった。大学近くの「服部時計店」には思い出がある。90を過ぎた店主が、「電機の時計」はわからんと言って電池交換をしてもらったこと。「オリオン書店」では、旧制八高の時代の思い出を聞きながら古本を買ったことなど。下は1957年8月の滝子商店街の七夕まつりの写真である。華やかな七夕の飾り付けとともに、賑やかな商店街の雰囲気が感じられる。

この本でもう一つ注目したのは、居酒屋「きも善」2代目大将（今池南西商店街振興組合理事）田中兼二さんだ。「人のつながりを大切にする心意気は今も変わらず」と、今池の昔を楽しく語る。今池にはなにかと馴染みがあり、「きも善」も好きな店のひとつだ。「きも善」初代と田中さんの兄が並んだ写真にも、「なつかしの商店街」の思い出が詰まっているようだ。



(2014年9月22日)